（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272200799		
法人名	有限会社　グループホームさんぽみち		
事業所名	グループホーム　さんぽみち柏		
所在地	千葉県柏市布施新町3-28-20		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅地に平成12年に柏第1号のグループホームとして開設以来、入居者の方々と共に助け合い、協力しながら笑顔あふれ生きがいを感じられ、さんぽみちを我が家と思え、安心して安定した生活が送れるように支援しています。地域の交流にも力を入れています。
民家型のグループホームなので、リビング等の空間はそれほど広くないが、その分利用者様一人ひとりに目が行き届く。職員の勤務年数も平均7年以上で、利用者様の個々の特徴を良く把握しており、その方に合ったきめ細かな対応をしている。
　雨の日を除き、ほぼ毎日の散歩を続けている。ご利用者様のお誕生日には一人ひとりのお誕生日会を開いているまた、年間行事のお祝いも楽しんで頂いている。（新年の初詣・ひな祭り・節句・盆踊り・敬老の日・お月見・クリスマス。）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームさんぽみち柏」は静かな住宅地にある民家改修型の施設で、周辺環境に溶け込んだ外観となっている。共有スペースは手狭ではあるが、家庭的な住居の中で職員による入居者への見守りや支援が行われており、プライバシーが確保されつつ自宅環境のギャップを感じさせない暮らしが入居者の信頼と安心に繋がっている。職員も日頃から笑顔での対応を心掛けており、職員同志のチームワーク向上や入居者・外部の人達との良好な関係作りに繋がっている。また、職員が毎食手作りする家庭的な料理は入居者の楽しみとなっており、家族からも好評を得ている。立地環境を活かして、積極的に地域の人達とコミュニケーションを図ると共に、地域活動に積極的に参加する等、地域に根差した施設運営に取り組んでいる。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、施設近隣の散歩は行っているが、その他の外出や交流活動は中止している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、利用者・家族・スタッフがいつでも見られる場所に掲示しています。ミーティング等に理念の確認及び共有化を図り、理念を意識した支援に努めています。	「安心して暮らせる安定した生活・残存能力を引き出す・尊厳ある生活を守る」を主眼とした施設理念を掲げている。理念を事業所内に掲示すると共に、ミーティング等で確認や共有する等、理解浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂き、散歩の時等声を掛け合って、日常的に交流している。駐車場の一角をゴミ置き場として提供している。	施設は住宅地の中にあり、日常的に近隣住民との触れ合う機会が多く、地域の一員として良好な関係を築いている。自治会への加入・ゴミ拾いの実施・地域行事や体操への参加等、地域交流に積極的に取り組んでいる。また、施設駐車場の一角をゴミ置き場として、地域に提供している。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、交流は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に収穫した野菜や手芸品を頂く等の交流はあるが、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に具体的に話したことはない。しかし日常的な交流により、地域の人々にはとっても理解して頂いているのではないかと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告や現状報告を行い、地域の理解の促進を図っている。意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。今年は新型コロナウイルスの影響の為、市からの要請により、開催できない状況です。	運営推進会議は地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族等が参加し、年6回開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に活かしている。しかし、今年の3月以降の会議については、新型コロナウイルス感染対策の為、中止になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス・運営に関して疑問が生じた際には、逐一ご相談するよう努めている。今年は新型コロナウイルスの影響の為、意見・情報交換は紙面上で留まっている。	日頃から市に対して相談や報告等を行い、連携を深めている。また、市主催の研修にも参加しており、市と共にサービスの質向上に取り組む体制が構築されている。他にも、柏市グループホーム連絡会の定例会や研修に参加し、市や同業者との交流に努めている。しかし、今年の柏市グループホーム連絡会については、新型コロナウイルス感染対策の為中止しており、電話やFAX等で意見や情報交換を行う等、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置すると共に、基本的には身体拘束はしないケアを実践している。建物の構造上、目がい行き届きにくい死角になっているので、安全確保のために一部施錠をしている。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施し、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、支援方法を検討し、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフにはマニュアルを設置し、周知徹底と日々話し合いをし、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について、関係者から情報を得たりする機会も多い。また、後見人がついている方が数人おり、実際活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入居時の不安や疑問点にお答えします。改定のある時は、家族に連絡を取り、不安の内容話し合い、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に家族の要望を聞き、また、日々のケアにおいて利用者の意見を聞き取りながら今後の運営に反映されている。家族との信頼関係を作りどんな事でも話せるようにしている。	面会時や電話連絡にて意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等においては、連絡ノート・会議・申し送り等を活用し、職員間で周知・検討の上、適切な改善に繋げている。家族や後見人に対して、個人記録を毎月送付していると共に、電話やメール等で入居者の生活状況を伝えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティングの際、意見を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	日々の申し送りや定期的なミーティングを通して、職員の意見や要望を確認している。また、定期的に内部研修を実施しており、支援の統一や質の向上を図っている。日頃からチームワーク向上に努めるている共に、希望休の採用を出来る限り行い、働き易い職場環境整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金の有効活用と給与基準を見直し福祉の向上を常に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記と同じでより多く研修等に参加し、それを活かしている。職員を目指しすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の加入しており、定例会議等で情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より家庭訪問（合意が得られた場合）を行い、本人・家族の十分に聞き取り不安のないよう努めている。特に初期は、環境の変化による混乱・不安等が多くみられるため、常に気を配り、時間をかけて少しずつ慣れて頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からどんな小さな相談にも耳に傾け、不安に思われている事や要望等をお伺いし、細々なところまで十分時間をかけ、話し合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族に対して、今何が必要なのかを模索するため、十分な聞き取り・話し合いを行う。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵・知識を教えて頂き、年長者として尊敬し、支えあって共に生活できるよう支援している。日常生活における家事に積極的にお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い、日常些細なことでもご報告し、ケアについてご相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問はごくまれだが、来訪した際はまたの来訪をお待ちしているとの声を伝えている。訪問の際には、家族に了解を得た上で。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けると共に、外出・外泊も自由となっており、馴染みの関係継続に配慮している。また、地域で行われる体操や行事等の参加や散歩の実施により、馴染みの関係が築けるよう支援している。その他にも希望に応じて個別・少人数でのドライブや買い物を実施している。しかし、今年の3月以降は、新型コロナウイルス感染対策の為、友人・知人・家族等の来訪受け入れは中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の行動を細やかに観察し、利用者同士の相性や人間関係を把握し、席替えやレクリエーションに活用している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も転居先に訪問したり、手紙でのやり取りがある。困った事があれば相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人としっかり向き合い、話を聞き、何を望んでいるのか、どうして欲しいかの把握に努め、希望に添える様にしている。また、家族に情報を頂いたりして努めている。	入所前に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、医療機関や他の事業所からの情報提供を受ける等、詳細な情報の把握に努めている。入所後も会議・連絡帳・申し送り等を活用しながら、職員間で意見交換や情報共有を行い、本人本位の生活が送れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を詳しく、家族・本人に頂くようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日欠かさず行い、状態の変化が見られた場合には、まず、オーナーに相談し、迅速な対応をしている。何気ない会話や表情などでも変化等がないか、常に観察している。一日の個人記録を製作し、一人ひとりの生活リズムを把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの希望・意見の聞き取り・ミーティングでの意見を取り入れ、本人に最大の介護が出来るよう、介護計画を作成している。また、心身の状況変化等により、随時、計画の見直しを行う。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師等の意見も取り入れながら状況判断を行っている。定期的に計画の達成状況の確認、評価、見直しを行っており、現状に応じた介護計画の作成及び支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を細かく個人記録に記入し、特に大切なことは必ず連絡ノートに記入し、スタッフに確認する事をしている。申し送り・ミーティンなどで共有し、実践を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	暮らしの中で利用者に何が必要なのかを考え、見極めたうえでその時々に出来る範囲で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方がが定期的に訪問して下さっている。新型コロナウイルスの影響に依り、今年は中止している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医を中心として、受診支援や定期的な往診を行っている。24時間対応とは言えないが、その時の状況により柔軟に対応している。急変により、通院・往診があれば、その都度オーナーと家族に電話連絡し、対応している。	希望の掛かりつけ医への受診や内科医の往診を実施しており、適切な受診支援を行っている。また、受診時には職員が付き添うケースもあり、医療機関と情報交換を行う機会を設けている。提携病院とは、緊急時・急変時においては状態変化に応じて迅速かつ適切に支援が行われるように体制を整えている。その他、必要に応じて、訪問歯科や訪問マッサージの利用も可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と往診を含め、連絡は常にとらせて頂き、助言や対応に備えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は家族対応になるが、情報収集など、常に家族との連絡の中で確認、退院後促しも協力は惜しまない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に来訪時、必要に応じて話し合っている。スタッフ共有し、話し合っている。	終末期・重度化における施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。必要に応じて、医療機関や他の介護サービス事業所への切り替えが円滑に行われるよう、関係機関との協力体制も整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等の対応マニュアル等で、職員研修を通じ、さらに日常化していきたい。グループホーム協会主催の研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回様々な場面を想定し、自主訓練を行っている。運営推進会議の時に地域の避難場所など、防災についての情報収集をしている。スプリンクラー設置済み。	自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署に届け出の下、夜間の火災想定訓練、消火器訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法を身に付けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないよう言葉崖に配慮し、人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、研修等を通して対応に気をつけている。	理念に基づき、入居者一人ひとりの尊厳を大切にした支援を実践している。また、マニュアルを整備すると共に、研修を実施しており、全職員が尊厳の保持やプライバシー保護の意義を理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の話に耳を傾け、スタッフに何でも話せる信頼関係を築くように努めている。自己決定が難しい場合は本人の希望を可能な限りくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れが決まっているが、出来る限り、意向に添う様、現状は厳しいが努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、清潔な衣類で生活できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの方も多いので苦手なメニューの場合、その方のみ変更する等、個人の好みを尊重している。家庭的なメニューでおいしいと言っていただける事が多い。お手伝いをできる方に無理のない範囲でスタッフと協力し行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを職員と協働で行っている。食生活が楽しみになるように、職員が入居者の希望や旬の食材を取り入れながら、手作りの家庭的な食事を提供している。その他、ケーキ等の手作りおやつの提供と共に、外食やお寿司等のテイクアウトを活用する等、様々な食の楽しみを支援している。現在、新型コロナウイルス感染対策の為、外食は中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩を心がけており、一人ひとりの体調に合わせた食事を提供するようにもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り、必要な方は介助している。スタッフは磨き残しがないよう、チェックしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、個人に合った声掛け・トイレ誘導を行っている。おむつなどの枚数表があり、スタッフ全員把握している。	排泄記録を活用しながら個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛け等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。食事のメニューや水分の提供に工夫を凝らすと共に、必要に応じて、医師の指示を仰ぎながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を取り、スムーズな排便を促せるよう対応している。また、こまめな水分摂取や適度な運動、調理メニュー等の工夫等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、その日の体調に合わせ、柔軟に対応。	入居者の体調や希望に応じて、柔軟な対応を行いながら適切な入浴機会の確保に努めている。必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を行っており、入居者の清潔保持に取り組んでいる。また、柚子湯や菖蒲湯等を実施し、季節感を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせた支援を行っている。布団干しは日常的に行い、心地よい安眠に配慮。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り時や連絡帳を活用し、確認したりし、スタッフの理解を得られるように努力している。服用チェック表を作成し、服用の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合ったお手伝い・食事準備・清掃・洗濯ものたたみ等をして頂いている。天気の良い日には、公園に出かけ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に公園も多く、四季折々の花等楽しめるよう、散歩は日常的に行っている。また、スーパーへの買い物や時には弁当を持って遠くの公園迄出かける等、戸外に出かけられるよう支援している。	日頃から、近隣の公園への散歩・商店への買い物・地域で行われている体操の参加等、戸外に出る機会を設けている。また、庭等を活用して気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。季節に応じて、お花見や初詣等を行っており、入居者の楽しみや心身の活性化に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、所持させていないが、必要があれば建て替えで対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したいという要望がないので家族からの電話を受けるのみ。年賀状・季節のあいさつなど、スタッフが見守りながら作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に配慮し、季節の生け花・作品・行事の写真等を飾り、心地よいよう工夫している	施設は民家を改修した施設となっており、周辺環境に溶け込んだ外観となっている。共有スペースには狭いながらも、ソファ・テーブル・椅子等を設置しており、自由にくつろげる環境が整備されている。施設内の所々に季節に応じた飾り付けや作品の掲示を行う等、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まる場所から少し離れたところにテーブル・イス・ソファー等を置き、くつろいで頂けるよう工夫している。ゴザ・ホットカーペットなどを使用し、座位の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり・風通しが良く、清潔に心がけ、心地良い様工夫している。家族同泊希望等があれば、状況により可能。	希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。日頃から窓の開閉・清掃・布団干しを行う等、入居者一人ひとりの習慣や気持ちに配慮した生活環境作りを目指している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の持っている力を引き出すような支援をしている。場所の表示をわかりやすく表示。民家改修型で段差などがあるが、自宅と環境が似ているので生活感がある。		